

聖アンデレ教会のみなさま

平和

ご復活の主日をまえに、聖なる3日間と呼ばれる日を迎えます。その期間の礼拝の中で記念されるキリスト・イエスの姿は「世にいる弟子たちを愛して。この上なく愛し抜かれた」（ヨハネ 13:1）ことをさまざまな出来事のうちに表しています。復活のよろこびの真意は、キリストの悩みと苦難・受難を通して、わたしたちに迫ってきます。

裁判の席で、総督ピラトは「真理と何か」（ヨハネ 18:38）とイエスに問うています。イエスはそこではお応えになりませんが、彼を信頼した人びとに向かって「わたしの言葉にとどまるならば、あなたたちは本当にわたしの弟子である。あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする。」（同 8:31, 32）と教えています。

復活の出来事は、キリストがその生涯を通して示された、愛と真理による自由を示しています。

わたしたちもまたさまざまな困難に直面していながらなお、この解放の声が響く世界のすべての人びととともに、その声に従う神の民・いのちに生きる自由の民であることを想い巡らします。

昨日4月7日に高橋宏幸主教より教書（8）が発せられました。お読みください。

またそこに呼びかけられているように、復活日（4月12日）正午に、それぞれの場で、「主の祈り」を唱えて、ご一緒におささげすることをお薦めします。

2020年4月8日

牧師 司祭フランシス下条裕章

※教区主教の「教書」は、主教座聖堂のホームページ <http://www.anglicanathedral.tokyo/> 参照。